

ふれあいの里グループホーム グース
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム グース 1F		
所在地	函館市花園町24番3号		
自己評価作成日	令和7年2月4日	評価結果市町村受理日	令和7年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400308-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに自分らしく過ごして頂けるよう、スタッフ一同、日々意見を出し合い、相談し支援に取り組んでいます。
町内会のお祭りや行事にも、以前の様に参加させて頂き、地域の方達との交流を増やし施設行事でも年間を通して、四季折々の外出行事、施設内でのイベントを楽しんで頂ければと思っています。
また、健康維持のため、リハビリ体操や歩行・立ち上がり運動など行っております。
食事に関しても当施設関連会社が配食産業であり、入居者様の栄養面に配慮した食生活を提供しております。
職員の研修や勉強会の参加、資格取得のサポートも充実し意欲・知識の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

函館市は函館山を背にして扇状に展開する地域である。市街地はおおむね平坦であるが、通称「産業道路」を境にして丘陵地になる。「ふれあいの里グループホームグース」は、JR函館駅の北東(約6Km 車で約20分程)にあり、事業所の前を走る道路を挟んで丘陵地となり、「産業道路」も近い。西方向に約3Km程行くと史跡五稜郭公園がある。施設は住宅街の中ともいえるが、両隣りは市の公社や病院の駐車場に挟まれている。裏手には北海道が管理する二級河川「鮫川」が流れている。周辺には住宅地、団地、商店が立ち並ぶ。この事業所の特筆すべき点は、看取りに力を入れている点にある。現在も3名の看取りを継続している。職員は年に一度の自己評価を通し、自分の力量を把握し次なる目標を立てて、理念を心に置き実践している。”自宅で過ごされているようにゆったりと過ごしてほしい”の姿勢で利用者に接している。運営推進会議には利用者家族の参加も得て意見交換している。暮れには近所の方々にカレンダーを配るなどして近隣との交流を深くしている。管理者、職員共に協働して取り組んでいて、地域で重要な役割を担う事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内の目に入る所に提示し、スタッフ会議時等にも話し合うようにし、理念の中の個性を尊重し、地域の関りやご家族様やご本人様が信頼し安心して頂けるよう、敬愛を重視したサービス向上に努めています。	理念は玄関、事務室、フロアに掲げている。朝の申し送り、会議を通して職員間で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しに積極的に参加させて頂きましたが、保育園園児の訪問交流はまだまだ難しいですが今後も機会があれば地域の方達との関わりを大切にしていける。	町会に入会しており以前は七夕等の行事に参加していたが、感染症のため中止状態である。今後は継続を考えている。暮れには近所の方々にカレンダーを配るなどして挨拶を交わし、交流を切らさないよう努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの際、町内会の方やご家族様に認知症の方についての日常や出来事の報告や勉強会、避難訓練などに参加して頂いています。会議に参加できない方には、後日議事録や資料などにて報告させて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、ご家族様や町内会、包括の方、地域の方々のご意見やご提案をサービスの向上に繋げている。	運営推進会議を通して行事や現状(入居、退去、職員動向、研修等)を報告している。町会や家族の方々も参加し意見交換して、サービスの向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や保健所へは疑問に思う事や事故が起きた時など密に連絡を取り、市や保健所などで行われている研修等にも積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケアの取り組み、サービス向上に活かしている。	市の保健福祉課や地域包括支援センター等より研修・会議の案内を受けている。又、事故報告、実地指導、運営推進会議などの報告・連絡を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度不適切防止委員会を開催し身体拘束・虐待について話し合い、年2回身体拘束・虐待の勉強会を定期的に行っている。常に拘束かどうかを考え、入居者様の安全において必要と思われる時にはご家族様の同意を頂くように取り組んでいる。	定期的に各種委員会、勉強会を開き、議事録も作成して職員全体に閲覧している。疑問に思う事は職員間で話し合ったり、管理者との個別面談で解決している。現在、拘束はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関りの中で、虐待につながっていないか注意を払い、気になる事があれば、その都度は声をかけ、話し合う機会を作っている。内部研修やスタッフ会議時に年2回以上は勉強会を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で学ぶ機会を持ち、必要な方には御家族様と連携し活用し、成年後見人制度を利用している方には後見人の方と連携し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約書等に関する内容を説明している。改訂の際には、その都度、説明と同意書を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の関わりの中から意見や要望を聞き、サービス反映に努めている。	家族からは訪問時や運営推進会議参加時に意見や希望を聞いている。緊急時には電話をかけて連絡している。遠くの家族には手紙に近況を書いて報告するなど意見・要望を取り入れる環境を作っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は職員会議などで検討をし、運営に反映するようにしている。	管理者は日々の申し送りや会議、年に一度の職員の自己評価の場を通し、職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し、個々の努力、実績を認め、やりがいの持てる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内の勉強会や外部研修への参加し、チームケアや個々としての知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎の会議や勉強会、南北海道グループホーム協議会での交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様からこれまでの生活状況を伺い、不安な事、ご要望等にも耳を傾けながら、その方にあった生活を送って頂ける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の気持ちや要望を話し合える関係作りに努め、思いを聞き取り安心して頂ける様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様がいま必要としている事を話し合いながら見極め、他のサービス利用も含めながらより良い支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様がこれまで生活してきた中で、行っていた事や得意な事を把握し行って頂き、入居者様と職員が共に支え合えるような関係作りに務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス5類に伴い、面会や外出制限も少しずつ緩和になりましたが、ご家族様がいつでも面会へ来やすいような環境作りに努め、行事の際には参加を呼びかけし、ご本人様と一緒に過ごして頂ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様へご本人の近況等を綴ったお手紙を毎月送らせていただいている。馴染みの方も面会に来やすいような環境作りに努め、関係が途切れないよう努めている。	感染症流行中は訪問理美容もままならず職員が支援してきた。面会は居室で行えるようになったが、多人数を制限することもあり予約制にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様、一人一人の性格等を把握し理解に努め、行事や普段の日常生活の中で入居者様同士がより良い関係が築いて頂ける様支援行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、退去後も連絡を入れたり、様子伺いや相談支援に協力し、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前データの(アセスメント)の把握や日頃から会話や見守りの中から希望や意向の把握に努めている。	毎日の会話の中から出来るだけ利用者に寄り添い、意向をくみ取っている。”自宅で過ごされているようにゆったりと過ごしてほしい”の姿勢で利用者に接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様のご様子、ご家族様に確認し、生活歴の把握、ご自分で使用していた家具等の私物を用いてサービス利用の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中で、できる事できない事の把握に努め、個々の体調や気分に合わせた対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンス等にて課題やケア方法を話し合いご本人様、ご家族様の意向を大切に介護計画を作成している。	利用者への関わりは以前は担当制を敷いていたが、現在は全職員で行っている。入居時は1か月、その後3か月ごとにモニタリングを行い、6か月の支援計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し、職員間で情報の共有をしながら必要に応じた介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会で意見交換等を行い、病院受診対応や個々の方の必要に応じた対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しへの参加や近隣保育園園児、ボランティアの方にも来訪して頂き交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられるよう支援行っている。	2か所の病院から月2回ずつ訪問診療を受けている。他病院へは職員が付き添って適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院と医療連携をとり、週1回健康管理指導看護師と相談や情報の共有をし適切な対応や助言を得てい往診や受診、訪問看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはご家族様に報告し病院関係者へ情報提供や交換、相談を行い関係作りに取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様へ重度化した場合や終末期の在り方について意向を確認し十分に説明を行い方針を共有し病院関係者等と情報交換を行っている。	看取りは経験している。現在は3名の看取りをしている。入居時に指針説明し同意を得ている。看取り開始時にも契約書を交わし、家族と話し合い最適な支援が出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に応急手当、初期対応が実践でき、知識を深めるため講習、勉強会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中または夜間想定し防災訓練を行い、また災害時のマニュアル等を用い勉強会を行い、非常時の対策を行っている。	年2回の訓練を実施している。災害用の備蓄は7日分を準備し、停電時には電気を使わないストーブや電池式の蛍光灯を用意するなど災害対策を行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、人としての尊厳を理解し言葉がけや対応を工夫している。	利用者の呼称については苗字と”さん”付けで決めているが結婚した事を忘れて利用するには旧姓で呼んでいる。排泄の支援時には周りの利用者に悟られないように、プライバシーを損ねない言葉かけやトーンに気をつけて対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し自己決定できるよう支援行っている。意思疎通が難しい時は表情で確認をしながらできるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしていきたいか、ご本人様の体調や状態に合わせてそれぞれのペースを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく過ごせるよう、希望に沿った身だしなみやおしゃれに対する支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み等を把握し、個々に合った食事を提供している。個々の能力に応じて盛り付けや食器 拭きなどのお手伝いをして頂いている。	利用者の誕生月には誕生会を行い、職員手作りのケーキや茶話会・カラオケ・ゲームなどで楽しんでいる。年間の季節行事に合わせた食事計画も計画して、毎日の食事の他に楽しめる工夫をしている。利用者と一緒に準備、片付けも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった摂取量を把握し、食事形態を工夫し提供している。水分摂取が困難な方には好みのゼリーやとろみ剤等を使用し対応行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ご本人様の不十分などのお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認等を行っている。	便秘症状の利用者が多いので、水分の摂取量をそれぞれに調整したり、冷たい水や牛乳を飲んでもらったりしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れ、体操や歩行運動にて予防に取り組み、また個々の排泄パターンを把握し便秘時には主治医より処方された薬を服用し排泄コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせ気持ちよく入浴できるよう支援行っている。	風呂は毎日沸かして週2～3回の入浴を目指している。午後からの入浴が中心で入る順番にも配慮し、一緒に歌ったり個々の状態に合わせて入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望に沿った対応にて安心して過ごして頂ける様支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等の把握をし、職員全員が服薬介助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援行っている。また、日々の楽しみ事や行事、お誕生会を楽しんで頂けるよう支援している。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出する機会を持てていなかったが、状況を見て、地域の行事へ参加したり、天気の良い日にはお散歩や行事などでも外出できるように支援を行っている。	現在は感染症の影響で外出はままならない状況である。今後は町会の七夕行事参加や以前行われていた介護タクシーを利用したのドライブや遠足を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方が多い為、基本はご家族様管理としております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望を伺いご家族様の生活時間に配慮し、やり取りができるよう支援行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに施設内の装飾を変え、共有の空間には季節ごとの装飾や行事や誕生会の写真を掲示している。遮光、室温調整、換気等を行い快適に過ごしていただける様努めている。	居間は明るくやわらかい日が差し、畳敷きのスペースには3月の季節を迎え、お雛様がかざられている。スペースも広くとられており、居心地よく過ごせるような工夫をしており、不快な臭いなどはしていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間におけるソファ席やテーブル席の配置に気配りし、入居者様同士会話を楽しんだり、一人で過ごしたり、一人一人の思いに添えるような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様に相談し、ご本人様の好みや使い慣れたものを使用して頂き、ご本人様が居心地よく過ごして頂ける様工夫を行っている。	居室はベッドなど本人の好みの物が持ち込まれている。壁には紙細工などの装飾品が飾られたり、一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれの「やりたい事」「知りたい事」「できない事」に細かく気をつけ安全に自立した生活が送られるよう支援を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム グース 2F		
所在地	函館市花園町24番3号		
自己評価作成日	令和7年2月4日	評価結果市町村受理日	令和7年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400308-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに自分らしく過ごして頂けるよう、スタッフ一同、日々意見を出し合い、相談し支援に取り組んでいます。
町内会のお祭りや行事にも、以前の様に参加させて頂き、地域の方達との交流を増やし施設行事でも年間を通して、四季折々の外出行事、施設内でのイベントを楽しんで頂ければと思っています。
また、健康維持のため、リハビリ体操や歩行・立ち上がり運動など行っております。
食事に関しても当施設関連会社が配食産業であり、入居者様の栄養面に配慮した食生活を提供しております。
職員の研修や勉強会の参加、資格取得のサポートも充実し意欲・知識の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内の目に入る所に提示し、スタッフ会議時等にも話し合うようにし、理念の中の個性を尊重し、地域の関りやご家族様やご本人様が信頼し安心して頂けるよう、敬愛を重視したサービス向上に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しに積極的に参加させて頂きましたが、保育園園児の訪問交流はまだまだ難しいですが今後も機会があれば地域の方達との関わりを大切にしていこう。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの際、町内会の方やご家族様に認知症の方についての日常や出来事の報告や勉強会、避難訓練などに参加して頂いています。会議に参加できない方には、後日議事録や資料などにて報告させて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、ご家族様や町内会、包括の方、地域の方々のご意見やご提案をサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や保健所へは疑問に思う事や事故が起きた時など密に連絡を取り、市や保健所などで行われている研修等にも積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケアの取り組み、サービス向上に活かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度不適切防止委員会を開催し身体拘束・虐待について話し合い、年2回身体拘束・虐待の勉強会を定期的に行っている。常に拘束かどうかを考え、入居者様の安全において必要と思われる時にはご家族様の同意を頂くように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関りの中で、虐待につながっていないか注意を払い、気になる事があれば、その都度は声をかけ、話し合う機会を作っている。内部研修やスタッフ会議時に年2回以上は勉強会を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で学ぶ機会を持ち、必要な方には御家族様と連携し活用し、成年後見人制度を利用している方には後見人の方と連携し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約書等に関する内容を説明している。改訂の際には、その都度、説明と同意書を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の関わりの中から意見や要望を聞き、サービス反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は職員会議などで検討をし、運営に反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し、個々の努力、実績を認め、やりがいの持てる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内の勉強会や外部研修への参加し、チームケアや個々としての知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎の会議や勉強会、南北海道グループホーム協議会での交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様からこれまでの生活状況を伺い、不安な事、ご要望等にも耳を傾けながら、その方にあった生活を送って頂ける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の気持ちや要望を話し合える関係作りに努め、思いを聞き取り安心して頂ける様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様がいま必要としている事を話し合いながら見極め、他のサービス利用も含めながらより良い支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様がこれまで生活してきた中で、行っていた事や得意な事を把握し行って頂き、入居者様と職員が共に支え合えるような関係作りに務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス5類に伴い、面会や外出制限も少しずつ緩和になりましたが、ご家族様がいつでも面会へ来やすいような環境作りに務め、行事の際には参加を呼びかけし、ご本人様と一緒に過ごして頂ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様へご本人の近況等を綴ったお手紙を毎月送らせていただいている。馴染みの方も面会に来やすいような環境作りに努め、関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様、一人一人の性格等を把握し理解に努め、行事や普段の日常生活の中で入居者様同士がより良い関係が築いて頂ける様支援行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、退去後も連絡を入れたり、様子伺いや相談支援に協力し、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前データの(アセスメント)の把握や日頃から会話や見守りの中から希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様のご様子、ご家族様に確認し、生活歴の把握、ご自分で使用していた家具等の私物を用いてサービス利用の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中で、できる事できない事の把握に努め、個々の体調や気分に合わせた対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンス等にて課題やケア方法を話し合いご本人様、ご家族様の意向を大切に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し、職員間で情報の共有をしながら必要に応じた介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会で意見交換等を行い、病院受診対応や個々の方の必要に応じた対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しへの参加や近隣保育園園児、ボランティアの方にも来訪して頂き交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられるよう支援行っている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院と医療連携をとり、週1回健康管理指導看護師と相談や情報の共有をし適切な対応や助言を得てい往診や受診、訪問看護を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはご家族様に報告し病院関係者へ情報提供や交換、相談を行い関係作りに取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様へ重度化した場合や終末期の在り方について意向を確認し十分に説明を行い方針を共有し病院関係者等と情報交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に応急手当、初期対応が実践でき、知識を深めるため講習、勉強会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中または夜間想定し防災訓練を行い、また災害時のマニュアル等を用い勉強会を行い、非常時の対策を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、人としての尊厳を理解し言葉かけや対応を工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し自己決定できるよう支援行っている。意思疎通が難しい時は表情で確認をしながらできるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしていきたいか、ご本人様の体調や状態に合わせてそれぞれのペースを大切にした支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく過ごせるよう、希望に沿った身だしなみやおしゃれに対する支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好み等を把握し、個々に合った食事を提供している。個々の能力に応じて盛り付けや食器 拭きなどのお手伝いをさせて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった摂取量を把握し、食事形態等工夫し提供している。水分摂取が困難な方には、好みのゼリーや、トロミ剤等を使用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、夕食後には義歯を洗浄剤につけ対応している。ご本人様の不十分な部分のお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れ、体操や歩行運動にて予防に取り組み、また個々の排泄パターンを把握し便秘時には主治医より処方された薬を服用し排泄コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせて、気持ちよく入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望に沿った対応にて、安心して過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等を把握をし、職員全員が服薬介助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援している。また、行事、お誕生日会、散歩等 楽しんで頂けるよう支援している。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出する機会を持てていなかったが、状況を見て、地域の行事へ参加したり、天気の良い日にはお散歩や行事などでも外出できるように支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方が多い為、基本はご家族様管理としております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により、スタッフが電話をかけ、内容をお伝えしたり、かかってきた電話にてお話しして頂いている。手紙が書ける様支援しており、届いた手紙はご本人様にお渡しし確認して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに施設内の装飾を変え共有の空間には季節ごとの装飾や行事や誕生会の写真を掲示している。遮光、室温調節、換気等を行い快適に過ごして頂ける様務めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士交流が図れるよう、食卓テーブルやソファなどの位置を考慮し、一人一人のの思いに沿うような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様に相談し、ご本人様の好みや使い慣れたものを使用頂き、ご本人様が居心地よく過ごして頂ける様工夫行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の能力に応じたの職員統一した支援を行っている。		